

# 教育システム情報学会

Japanese Society for Information and Systems in Education

# JSiSE

発行日 2003年 1月31日  
発行所 教育システム情報学会  
発行者 岡本敏雄  
・ 661-8520 尼崎市南塚口町7-29-1  
園田学園女子大学情報教育センター内  
・ 06-4961-6507 FAX06-4961-6508  
<http://www.jsise.org/>  
E-mail:secretariat@jsise.org

## ニュース・レター No.121



### 2003年を迎えて

会長 / 岡本 敏雄

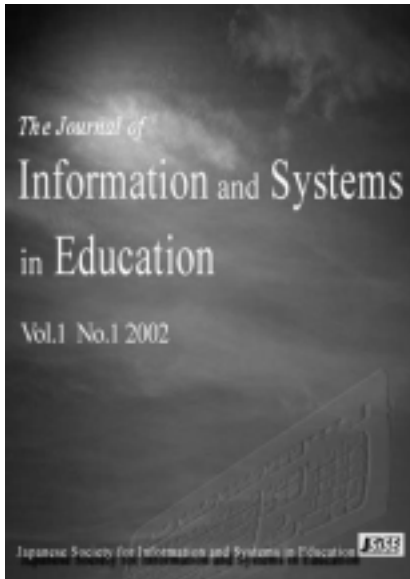
会員の皆様、明けましておめでとうございます。本年も宜しく願いいたします。本学会の会員数も着実に増加しております。現在、約 1160 名の会員を有する学会になりました。本年度中に、1500 名を達成したく思っております。何卒、この分野に関心のある方々の新規獲得に、ご協力お願い申し上げます。

さて、本年度は、待望の JSiSE 英文誌が発刊されます。ご尽力いただいた方々に心から感謝いたします。これを通じて、本学会が国際化に向けての船出をしたこととなります。国内外から、高い評価を頂けるよう一層の努力をしていきたいと思っております。さらに 9 月に、日独共同ワークショップ(ベルリン)を企画し、開催の運びとなっています。テーマは、“The Joint Workshop of Cognition and Learning through Media-Communication for Advanced E-Learning” です。多数の方々のご参画を期待いたします。

私が、会長に就任し、5つの目標を掲げました。すなわち、  
国際化への対応  
e-Learning の学術的推進  
情報教育の実践的推進  
情報化時代における新しい教授学 (ID、評価技術等を含む) の探求  
産官学の連携強化

一度に、多くのことはできませんが、 から を推進してきたのではと思います。もちろん、本学会が守備範囲とするところは、認知科学、人工知能、言語教育、教授・学習過程、評価法など、多岐に渡りますので、和文誌編集委員会や研究会委員会、そして全国大会の企画委員会等において、バランスのとれた、かつ意味のあるテーマを探求ながら、一層魅力ある学会にしていきたいと思っております。なお、研究会委員会におきまして、研究会のもちかたも従来の部会制の長所を生かしつつ、年間を通して企画をしていただき、時を得た旬なテーマ設定や多様なあり方をしていただくようになりました。また、研究報告集の学術的体裁も工夫・改定して頂きました。そのような活動を通して、質と量の拡大を図っていきたく思います。また、WWW・広報委員会、会計の健全化、組織運営の効率化など学会の基盤となる部分におきましても、理事、評議員、会員の方々のご意見を尊重しながら、改善を図っていきたく思います。少なくとも、IT と教育に関する研究分野の専門店・老舗として、再度、本学会の存在を鼓舞していきたく思っております。どうか、本年も宜しくご指導頂けるようお願いいたします。同時に、会員の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

2003年1月元旦



# 創刊号

## 教育システム情報学会英文論文誌

発刊(2003年2月末日)

### Information and Systems in Education

Vol.1, No.1, 2002

教育システム情報学会では、昨年度から年1回定期的に英文論文誌を発行することになり、このたび、「Information and Systems in Education, Vol.1, No.1, 2002」を創刊号として世界に向けて発行する準備が整いました。2003年2月末日の発行となります。

Vol.1, No.1の内容は招待論文2件、特別論文5件、翻訳論文1件、一般論文5件(原著論文2件、実践論文3件)で構成されており、質・量ともに「教育と情報通信技術」に関する世界レベルの内容になりました。これは、本学会が「教育と情報通信、システム」にかかわる代表的学会として本学会が世界的レベルで発展を続けるため、大きなステップとなるものと確信いたします。

今後も本学会会員の皆様が教育システム情報学会英文論文誌「Information and Systems in Education」大いに活用され、国際的に活躍されることを期待いたします。

## 掲載論文

### Foreword (Keynote Article)

Toshio Okamoto (President of JSiSE, The University of Electro-Communications)

### Opening Article

Yukuo Isomoto (Editor-in-chief of JSiSE International Journal, Nagoya City University)

### Invited Papers

Takashi Sakamoto (National Institute of Multimedia Education)

*Development of Information and Communication Technology use in School Education in Japan*

Setsuko Otsuki (Hiroshima City University)

*A study on support paradigms and applications to e-learning*

次ページへつづく

### **Special Papers**

Kinshuku (Massey University, New Zealand)

*User Exploration Based Adaptation in Adaptive Learning Systems*

Chee-Kit Looi (National University of Singapore, Singapore)

*Cultural Issues and the Design of e-Learning*

Dietrich Albert (University of Graz, Austria)

*Metadata Driven Approaches to Facilitate Adaptivity in Personalized eLearning Systems*

Haruki Ueno (National Institute of Informatics, Japan)

*Internet-Based Distance Learning for Lifelong Engineering Education*

*- A personal view and Issues -*

Koji Itoh (Tokyo University of Science, Japan)

*Learning by Problem-Solving Assisted of Planning Solution with Repertories of Problem Types and Plan-Indexed Sample Problems with Solutions*

### **Translation of Awarded Paper**

Katsuhiko Mouri, Masao Suzuki, Takami Yasuda, Shigeki Yokoi (Nagoya City Science Museum, Nagoya University)

*Production and practical use of teaching materials based on 3-dimensional computer-graphics technology with collaboration in education of astronomy*

### **Regular Papers (Original Paper)**

Yukari Kato, Toshio Okamoto, Tatsunori Matsui (The University of Electro-Communications)

*A Relevant Learning Framework for Nonnative Speakers: A Proposal for Integrating Textual and Graphical Information in Japanese Academic Reading*

Yusuke Hayashi, Hiroyuki Tsumoto, Mitsuru Ikeda, Riichiro Mizoguchi (Osaka University)

*Kfarm: An Ontology-aware Support Environment for Learning-Oriented Knowledge Management*

### **Regular Papers (Practical Paper)**

Yaeko Nakanishi, Lumi Tatsuta (Dokkyo University)

*Web-based Japanese Listening Program: Development, Implementation and Results*

Duminda Nisahntha, Yukuo Hayashida, Toshihiro Hayashi, Takeshi Katsuki, Masaaki Goto, Koichiro

Ihara, N.A. De S. Amaratunga, Jayantha Weerasinghe, Nobuyuki Tokurea (Saga University, Saga Medical School, University of Peradeniya, Optowave Laboratory)

*Multimedia Medical Collaboration over the Internet between Sri Lanka and Japan*

Hiroyuki Mitsuhashi, Youji Ochi, Kazuhide Kanenishi, Yoneo Yano (Tokushima University)

*An Adaptive Web-based Learning System with a Free-hyperlink Environment for Circumventing an Exploration Impasse Caused by a Hyperlink Shortage*

# 今年の夏の全国大会は茨城大学 8月30日、31日に決定！

## 第28回全国大会のご案内 デジタル・ルネッサンスの教育環境の展開 ～創造性を育む学習エコロジーの探究～

本年度の全国大会は、茨城大学水戸キャンパス（水戸市）にて開催されます。今回の大会では、デジタル・ネットワーク化が進む高度情報化社会の中で、文化や社会などとの関係を深めるとともに、地球規模にも広がりつつある多様な学習環境や教育環境を探ります。講演、パネル討論、各種発表セッションと企画しております。多くのご発表、ご参加をお待ちしております。

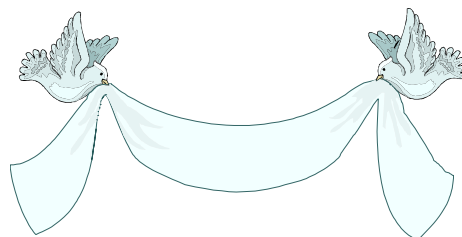
開催日時 2003年8月30日（土）・31日（日）

会場 茨城大学水戸キャンパス  
〒310-8512 水戸市文京2-1-1

主催 教育システム情報学会

後援 文部科学省 / 経済産業省 / 茨城県教育委員会 /  
水戸市教育委員会（依頼中）

協賛 ALIC（先進学習基盤協議会） / 教育工学会 /  
電子情報通信学会教育工学研究会 / その他（依頼中）



## 教育システム情報学会第28回全国大会組織

### <大会企画委員会>

企画委員長 菅井勝雄（大阪大学大学院）  
企画副委員長 樋川和伸（金沢学院大学）  
企画委員 池田 満（大阪大学） 磯本征雄（名古屋市立大学大学院）  
伊藤紘二（東京理科大学） 伊東幸宏（静岡大学）  
稲見泰生（茨城大学） 小西達裕（静岡大学）  
小松秀園（NTTラーニングシステム）  
西端律子（大阪大学大学院） 野嶋栄一郎（早稲田大学）  
本田敏明（茨城大学） 松永公廣（摂南大学）  
松居辰則（電気通信大学大学院）  
山本 恒（園田学園女子大学） 米澤宣義（工学院大学）  
渡辺成良（電気通信大学）  
オブザーバ 岡本敏雄（電気通信大学大学院）

### <第28回全国大会実行委員会>

実行委員長 本田敏明（茨城大学）  
実行副委員長 稲見泰生（茨城大学）  
実行委員 伊藤紘二（東京理科大学） 伊東幸宏（静岡大学）  
小西達裕（静岡大学） 小松秀園（NTTラーニングシステム）  
関 友作（茨城大学） 中村直人（千葉工業大学）  
二宮利江（茨城大学） 溝口理一郎（大阪大学）  
米澤宣義（工学院大学）  
（2003年1月25日現在 若干追加の可能性あります）

### <大会アドバイザー>

理事・監事 赤堀侃司（東京工業大学） 今栄国晴（名古屋音楽大学）  
大槻説乎（広島市立大学） 大下眞二郎（信州大学）  
小荒井順（NECソフト） 上月景正（コナミ）  
坂元 ・（メディア教育開発センター）  
清水康敬（国立教育政策研究所）  
竹内 章（九州工業大学） 対馬勝英（大阪電気通信大学）  
永岡慶三（メディア教育開発センター）  
永野和男（聖心女子大学） 溝口理一郎（大阪大学）  
矢野米雄（徳島大学）  
評議員 家本 修（大阪経済大学） 石桁正士（大阪電気通信大学）  
奥田富蔵（東海大学） 黒瀬能津（近畿大学）  
向後千春（富山大学） 渋井二三男（城西大学）  
高橋参吉（大阪府立工業高等専門学校）  
竹本宣弘（高崎商科大学）  
西野和典（大阪電気通信大学） 平嶋 宗（九州工業大学）  
福原美三（NTT-X） 細井秀樹（山村女子短期大学）  
前迫孝憲（大阪大学） 三輪和久（名古屋大学）  
村本 紘（金沢工業大学） 山崎敏範（香川大学）  
横山節雄（東京学芸大学） 吉田 覚（日本データパシフィック）

# 教育システム情報学会 英文論文誌 論文募集 (Vol.2, No.1, 2003 年発行)

教育システム情報学会では、昨年度から年 1 回定期的に英文論文誌を発行することになり、Vol.1, No.1 を創刊号として世界に向けて発行することができました。Vol.1, No.1 の内容は招待論文 2 件、特別論文 5 件、翻訳論文 1 件、一般論文 5 件（原著論文 2 件、実践論文 3 件）で構成されており、質・量ともに「教育と情報通信技術」に関する世界レベルの内容になりました。是非、多くの方々にご投稿いただき、革新的な研究成果、ユニークな実践等を世界に向けて積極的に発信していただきたいと考えます。

下記の要領で、Vol.2, No.1 への掲載論文を募集いたします。多くの皆様からの投稿をお待ち申し上げております。

論文種別：原著論文、実践論文

投稿締切：2003 年 4 月末日（投稿は随時受け付けておりますが、この期日までにご投稿をいただいたものに関しては Vol.2, No.1 への掲載の対象となります）

原稿執筆要領：下記の執筆要領に従って原稿を作成してください。なお、執筆要領の詳細は Web ページ（<http://www.jsise.org/e-journal/cfp.html>）を参照してください。

寄稿の手続き

- ・論文は他学会において査読中でないこと。そしてその主要部分が未発表であること。但し、国際会議、学会の大会、研究会等で口頭発表したものをまとめたものは投稿することができる。
- ・寄稿者は本会会員である必要はないが、本会会員である場合には投稿料に会員の価格が適用される。寄稿者が 2 名以上の連名の場合は、そのうち少なくとも 1 名が会員になれば投稿料に会員価格が適用される。

寄稿原稿の執筆要領

- ・原稿の構成：標題、著者名（氏名、所属）、概要、本文、参考文献、付録の順序とする。原稿は刷り上りイメージになるべく近い形で作成し、図・表も本文中に含めること。
- ・記述言語：英語のみ
- ・Abstract：150 words 以内でつける。また、その下にキーワードを 5 つ程度書く。
- ・本文：章・節・項、等の見出しをつけて読み易くし、それぞれ「1.」...、「1.1」...、「(1)」(2)」...、「(a)」(b)」...の順に区別する。
- ・参考（引用）文献：記述内容に直接関連のある文献は、主文中における該当箇所の肩上の（ ）内に番号を示す。  
(例) (1) Rockart, J. F. and Morton, M.S.S.; "Computers and the Learning Process in Higher Education", McGraw Hill, New York (1975)。
- ・図表：そのまま印刷されるので明瞭に書く。写真は図として扱い白黒のものを原則とする。
- ・制限枚数：原稿は A4 判の用紙を使用し、10pt の Times フォントを基本として縦 24cm、横 18cm の範囲に 2 段組みの書式で、刷り上がりイメージにできるだけ近い状態で印刷して投稿のこと。刷り上がりページ数は、原則として図表を含めて 8 頁以内とする。
- ・提出物：オリジナル原稿 1 部とコピー 3 部を郵送する。同時にオリジナル原稿を PDF 形式または Word 形式にしたものを電子メールに添付して送付する（ファイルサイズが 1M バイト未満）、またはダウンロードできるようにする。
- ・その他：学術用語は文部省の規定があればそれに従うこと。また、学会名、およびその略称は学会指定のものがあればそれに従うこと。

原稿の送付先

送付される際には封筒の表面に「英文誌投稿原稿在中」と朱書してください。

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-2-5 浅井ビル 4F

科学技術教育協会内 JSiSE 英文論文誌編集事務局 伊藤泰雅(いとう やすまさ)

E-mail: [jsise-e@fest.or.jp](mailto:jsise-e@fest.or.jp) TEL: 03-5842-8482 / FAX: 03-5842-8483

# 第 94 回研究会のお知らせ

## 情報教育研究部会（部会長 / 松永公廣）

### プログラム

日時： 2003年3月15日（土） 10:00 - 16:40

会場： 大阪電気通信大学 寝屋川学舎 B210  
〒572-8530 大阪府寝屋川市初町 18-8

交通： JR 大阪駅より環状線に乗換京橋下車，京阪電鉄に乗換寝屋川下車，徒歩 10 分  
詳しくは大阪電気通信大学の Web ページをごらんください。

会場連絡先： 大阪電気通信大学 総合情報学部 メディア情報文化学科 西野 和典  
住所：〒575-0063 大阪府四條畷市清滝 1130-70  
電話：(直通)072-876-5473 FAX：072-876-5473 E-mail: nishino@dmic.org

10:00 開始

10:10 ~ 11:50 第1セッション 座長 西野和典（大阪電気通信大学）

- 1) Web 問題集を使った C プログラミング基礎教育の授業設計  
佐野繭美（摂南大学），橋本はる美（摂南大学），牧野 純（摂南大学），高橋参吉（大阪府立工業高等専門学校）松永公廣（摂南大学）
- 2) プログラミング学習のための電子学習環境の構築と評価  
高橋参吉（大阪府立工業高等専門学校），菅 豊（大阪府立工業高等専門学校），松永公廣（摂南大学）
- 3) シミュレーションを用いた大量調理用献立作成演習の授業設計  
深津智恵美（園田学園女子大学），森田薫（園田学園女子大学），森永理恵子，松永公廣（摂南大学），西端律子（大阪大学），前迫孝憲（大阪大学），菅井勝雄（大阪大学）
- 4) アニメーション映像教材つきプレゼンテーション教材の有効性に関する研究  
北村光一（滋賀県立彦根工業高校），西村恵里子（滋賀県立彦根工業高校）今井 正（滋賀県立彦根工業高校），成宮源治郎「滋賀県立彦根西高校」

11:50 - 13:00 昼休み・休憩

13:00 - 14:40 第2セッション 座長 工藤英男（国立奈良工業高等専門学校）

- 5) PowerPointによる情報倫理教材の開発  
高橋参吉（大阪府立工業高等専門学校），堰口佳保里（大阪府立工業高等専門学校）
- 6) WBE/WBT 作成を目指した情報システム演習とその評価  
栢木紀哉（宮城大学），岡田ロベルト（宮城大学），斐品正照（東京国際大学）
- 7) アルゴリズム学習におけるプログラミング言語を用いた学習と構造化チャートを用いた学習の比較  
斐品正照（東京国際大学），河村一樹（東京国際大学）
- 8) ツールを用いた 3 次元 CG の教育実践  
江見圭司（金沢工大），矢島 彰（京都女子大），水野義之（京都女子大）

次ページへつづく

14:40 - 15:00 休憩

15:00 - 16:40 第3セッション 座長 横山 宏(大阪電気通信大学短期大学部)

9) 主観値入力装置の入力特性に関する基礎的研究

上月景正(コナミ株式会社), 浅羽修丈(大阪電気通信大学) 石桁正士(大阪電気通信大学)

10) 問題解決演習ワークブック用学習支援システムにおける支援方法

佐藤妙子(大阪電気通信大学大学院), 稲浦 綾(大阪電気通信大学) 渡辺寛二(大阪電気通信大学短期大学部), 石桁正士(大阪電気通信大学)

11) プレゼンテーション能力育成を目指した授業実践

稲浦 綾(大阪電気通信大学), 西野和典(大阪電気通信大学) 飯田慈子(大阪電気通信大学)

12) 普通教科「情報」の教科書と「指導解説書」の内容

西野和典(大阪電気通信大学), 山上通恵(兵庫県立神戸甲北高等学校) 野口紳一郎(龍谷大学), 中條道雄(関西学院大学)

## 第95回研究会 発表募集のご案内

企業内教育研究部会(部会長/仲林 清)

教育システム情報学会では『学習コンテンツデザイン』をテーマに研究会を開催いたします。多くの方々にご発表いただけますようご案内申し上げます。

e-learning という用語がかなり定着してきました。技術、環境、教材、ビジネス等、e-learning を取り巻く様々な観点からの研究・開発・実践が行われています。このような背景の下、コンテンツの品質が e-learning の成否を決定付ける大きな要因であることも明らかになってきました。

そこで、本研究会では学習コンテンツに焦点を当てた多角的な議論を行いたいと考えております。具体的には、メディアとしての学習コンテンツの構成、Instructional Design などを踏まえたコンテンツの設計、運用・管理、評価、シミュレーションや適合型コンテンツの実現手法、コンテンツの作成・流通・再利用のための技術標準化やツール・システム、といったテーマを想定しておりますが、もちろんこれらに限定はいたしません。また、企業のみならず高等教育、初等中等教育からもユニークなアイデア、先進的な実践等、ご披露いただきたいと考えております。

記

日 時：2003年5月30日(金)

会 場：東京都内

申込期限：2003年3月31日(月)

原稿締切：2003年5月6日(火)

申込方法：電子メールで研究会幹事の松居(電気通信大学)宛、下記の項目をお送り下さい。

(申込先: matsui-t@ai.is.uec.ac.jp)

(1) 発表タイトル

(2) 著者名(登壇者に)

(3) 所属

(4) アブストラクト(200字程度)

(5) 連絡先住所、氏名、電話番号、FAX番号、電子メールアドレス

(6) その他、発表に関するご要望

なお、ご不明な点も幹事の松居宛ご連絡下さい。



## 第 92 回インターネットとその教育応用研究部会の報告

部会長 / 横山節雄

第 92 回研究会（インターネットとその教育応用部会）は、11月30日（土）に東京学芸大学で開催された。当日は複数の学会の研究会、シンポジウム等が重なり、立看板が林立していたが、カラーで印刷された本学会の看板はひときわ目立っていた。参加者は30名で例年とほぼ同数。活発な質疑応答が行われ、盛況な研究会であった。また、終了後、国分寺界隈で懇親会が行われ、10名の参加者があり、研究会の2次会となった。

## 新入会員の紹介

新入会員（敬称略）

JSiSE-A0201971	熊澤光敏	法政大学	準会員
JSiSE-A0201972	伊藤泰雅	(財)科学技術教育協会	正会員
JSiSE-A0201973	野須 潔	東海大学	正会員
JSiSE-A0201974	冬木正彦	関西大学	正会員
JSiSE-A0201975	香川考司	香川大学	正会員
JSiSE-A0201976	坪野博宣	龍谷大学	正会員
JSiSE-A0201977	福永良浩	中村学園大学	正会員
JSiSE-A0201978	高橋 純	富山大学	正会員
JSiSE-A0201979	山下直子	香川大学	正会員
JSiSE-A0201980	岡田雅樹	兵庫教育大学	準会員

2002 年度新入会員（2002 年 11 月 21 日～2003 年 1 月 20 日）

訃報

### 本学会名誉会員 京藤睦重先生がご逝去されました

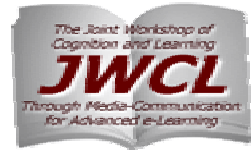
本学会の名誉会員で、昭和 48 年から金沢工業大学の第 2 代学長を務められた京藤睦重先生が、昨年 10 月 25 日にご病気のためご逝去されました。享年 100 歳の大往生でした。

先生は、強力なリーダーシップと教育に対する情熱を基盤に、本学会の設立にご尽力されました。また、昭和 53 年に金沢工業大学で機械振興会の C A I システムを参考に独自のシステムを開発されるなど、日本の初期における C A I 研究開発の草分け的な存在で本学会の原点を支えていただいた先生でもあります。

ここに会員の皆様にお知らせしますと共に、慎んでご冥福をお祈りいたします。

# First Call for Paper

The Joint Workshop of Cognition and Learning  
Through Media-Communication for Advanced e-Learning



September 8-9, 2003  
Japanese-German Center Berlin (JDZB), Berlin, Germany

## Host Organization:

Japanese-German Center Berlin (JDZB)

## In Cooperation with

Japanese Society for Information and Systems in Education (JSISE)

German Cognitive Science Society (GK eV)

Graz University, Austria (Cognitive Science Section)

## The topics of interest:

Topics of the Workshop include but are not limited to:

- Adaptive and Intelligent e-Learning Systems
- Administration, Maintenance and Structure of e-Learning Contents
- Cognitive Science Application to e-Learning
- Technological Environments for Collaborative Learning
- Distance Learning Communities
- Intercultural / International Collaborative Learning
- Standardization and Metadata for Learning
- Resources Synchronous / Asynchronous Distance Learning
- Architecture of advanced and distributed e-Learning systems
- E-media Communication, Natural Communication and Electronic Literacies
- e-Learner Modelling
- Knowledge Management for e-Learning systems
- Web-based sharing and exchange of knowledge

## Paper Submission and Review:

- All papers should be written in English
- 4 to 6 pages
- Full Paper Review

## Important Date:

All submission for papers: June 10, 2003

## For More Information:

Please visit the WWW site of the Workshop.

<http://www.jsise.org/jwcl/> (in English)

## Queries:

For queries about the program, contact the Program Secretary

Yasuhisa Tamura (ytamura@me.sophia.ac.jp)

Tel. 03-3238-3003, Fax. 03-3238-3311



International conference

ADVANCED LEARNING TECHNOLOGIES  
AND APPLICATIONS

LITHUANIAN NODE



## FIRST CALL FOR PAPERS

International conference

## ADVANCED LEARNING TECHNOLOGIES AND APPLICATIONS – ALTA'03

Kaunas University of Technology, 11-13 September 2003

Prof. A.Targamadze - Chairman

Assoc. Prof. K.Baniulis – Scientific secretary

Dr. D. Rutkauskiene - Program adviser



K A U N O  
TECHNOLOGIJOS  
UNIVERSITETAS

### Host organizations:

- Lithuanian group of FR5 IST project LeGE-WG Kaunas University of Technology (KTU),
- Lithuanian Distance Education Association,

### in cooperation with

- Academic and Research Network of Lithuania LITNET,
- Japan Society for Information and Systems in Education (JSiSE).

### The aim of the Conference

The conference is intended to present research, practice, advancements in network-based education. Presentations are invited from participants interested in use of Information and Communication technologies at all levels of education. The conference is viewed not only as the forum for presentation and dissemination of best e\_learning practices, but also as event for establishment a new collaborative links and strengthening existing between e\_learning research groups in different countries.

### Wide topics of the conference include but not limited to:

- Systems and tools for implementation of advanced learning models,
- Effective e-studies at and university, college, high school,
- Architectural aspects of advanced e\_learning systems.

### Paper submission:

- All papers should be written in English;
- 4 or 6 pages.

### Deadlines:

- Paper submission 10 June, 2003.

### Address for submission:

LeGE-WG Conference Secretariat  
Kaunas University of Technology  
Studentu 50-414  
LT 3031 Kaunas, Lithuania

Tel +370 37 300369, +370 37 300611

Fax: +370 37 300352

E-mails: [kazysba@pit.ktu.lt](mailto:kazysba@pit.ktu.lt), [danrut@uni.ktu.lt](mailto:danrut@uni.ktu.lt)

News and address for **electronic submission** you will find at <http://www.lege.ktu.lt/ALTA>

## 国際会議の案内

国際会議は、教育システム情報学会の会員のみなさんからの紹介やインターネット上で流れている CFP 情報をもとに編集されています。会員のみなさんに紹介したい国際会議などがありましたら、下記までご連絡下さい。また、実際に国際会議に参加されたレポートなどを送っていただければ今後の国際会議の案内作成の際に大変参考になりますので、そちらのほうもお待ちしております。

本案内はWWW

( <http://www.fu.is.saga-u.ac.jp/~hayashi/jsise/conf.htm> ) で見ることできます。

## 新着情報 3 件

ICALT 2003: 3rd IEEE International Conference on Advanced Learning Technologies  
開催日程: 2003 年 7 月 9-11 日  
開催地: Athens, Greece  
論文応募締切: 2003 年 2 月 14 日  
URL: <http://ltf.ieee.org/icalt2003/>  
e-mail: [icalt2003@iti.gr](mailto:icalt2003@iti.gr)

ISAGA2003: Annual conference of Interenational Simulation and Gaming Association  
開催日程: 2003 年 8 月 25 日-29 日  
主催: 日本学術会議、日本シミュレーション&ゲーミング学会  
開催地: かずさアカデミアパーク, 千葉県木更津市  
論文応募締切: 2003 年 4 月 1 日  
URL: <http://www.isaga2003.org/>  
e-mail: [secretary@jasag.org](mailto:secretary@jasag.org)

ICCE 2003: International Conference on Computers in Education  
開催日程: 2003 年 12 月 2-5 日  
主催: AACE  
開催地: Hong Kong  
論文応募締切: 2003 年 4 月 16 日  
URL: <http://www.icce03.org/>  
e-mail: [icce2002@icc.com.hk](mailto:icce2002@icc.com.hk)

## 再掲載情報 4 件

ITHET'03 : 4th International Conference on Information TechnologyBased Hogher Education and Training  
開催日程: 2003 年 7 月 7-9 日  
開催地: Marrakesh, Morocco  
論文応募締切: 2003 年 2 月 1 日  
URL: <http://www.emi.ac.ma/ithet03/>  
e-mail: [ithet03@emi.ac.ma](mailto:ithet03@emi.ac.ma)

Hypertext 2003 : 14th ACM Conference on Hypertext and Hypermedia  
開催日程: 2003 年 8 月 26 日-30 日  
開催地: Nottigham, UK  
論文応募締切: 2003 年 2 月 15 日  
URL: <http://www.ht03.org.uk/>  
e-mail: [lac@ecs.soton.ac.uk](mailto:lac@ecs.soton.ac.uk)

INTERACT 2003 : 9th IFIP TC 13 International Conference on Human-Computer Interaction  
開催日程: 2003 年 9 月 1 日-5 日  
開催地: Zurich, Switzerland  
論文応募締切: 2003 年 1 月 26 日  
URL: <http://www.interact2003.org/index.htm>  
e-mail: [info@interact2003.org](mailto:info@interact2003.org)

E-Learn 2003: World Conference on E-Learning in Corporate, Government, Healthcare, & Highe Education  
開催日程: 2003 年 11 月 7-11 日  
主催: AACE  
開催地: Phoenix, Arizona, USA  
論文応募締切: 2003 年 4 月 30 日  
URL: <http://www.aace.org/conf/default.htm>  
e-mail: [conf@aace.org](mailto:conf@aace.org)

国際会議案内文責 松原 行宏 (香川大学)  
E-mail: [matsubar@eng.kagawa-u.ac.jp](mailto:matsubar@eng.kagawa-u.ac.jp)

## 第 84 回 理事会・評議会 議事録

日時：2002 年 11 月 29 日（金） 17 時 30 分～19 時 30 分

場所：アルカディア市ヶ谷

出席者：理事

岡本，磯本，小松，赤堀，伊藤（委任状），大槻（委任状），大下，上月（委任状），坂元，  
清水，菅井，竹内（委任状），永岡，樋川（委任状），溝口（委任状），矢野（委任状），  
渡辺，山本，

欠席者：対馬，永野

出席者：監事

今栄（委任状）

欠席者：小荒井

出席者：評議員

洪井，福原，細井，松永，前迫，三輪，村本，米澤，

欠席者：家本，石桁，奥田，黒瀬，向後，高橋，竹本，西野，平嶋，山崎，横山，吉田

：事務局

山本

：その他

田村（企画委員会 国際ワークショップ）

岩崎（記録）

配布資料 1：JSiSE 第 84 回理事会・評議会資料

配布資料 2：J-STAGE 予稿集公開システムのご提供について（別紙 1）

配布資料 3：教育システム情報学会パンフレット（別紙 2）

配布資料 4：CAI 学会「維持会員」としての御入会お願い（別紙 3）

配布資料 5：研究報告創刊号表紙（回覧 2）

回覧資料 1：新入会申込書の写し

### 1) 新入会員の承認

- ・山本事務局長より，配布資料 1 の pp.4-5，回覧資料 1 に基づき，新入会員の説明があり，原案通り承認された。

### 2) 来年度の全国大会に関する件

- ・菅井理事（大会企画委員長）より，配布資料 1 の pp.6 に基づき，来年度の全国大会に関する説明があった。
  - + 今回の開催は茨城大学を予定しており，本田先生を中心に実行委員会を組織するとの説明があり，承認された。
  - + 次年度大会の開催テーマについてのご提案を賜りたいとの依頼があった。
  - + 今後，教育学部での開催を考慮に入れて，大会テーマ等を検討していくとの説明があった。
- ・山本事務局長より，配布資料 1 の pp.6，配布資料 2 に基づき，J-STAGE の説明があった。また，全国大会の発表申し込み，論文の公開時等に利用したいとの依頼があり，議論の結果，承認された。

3) 来年度からの研究部会の在り方について

- ・渡辺理事より、配布資料1の pp.8 に基づき、2003年度研究会の予定（開催月、テーマ、開催地、担当部会）について報告があり、承認された。
- ・山本事務局長より、配布資料1の pp.8 に基づき、研究委員会企画シンポジウムの提案がなされ、承認された。
  - + 岡本会長より、研究委員会は独自にシンポジウムを企画できるため、今後ともシンポジウムを積極的に行って欲しいとの依頼があった。
- ・小松副会長（e-Learning 技術委員会委員長）より、「e-Learning 技術委員会」のシンポジウムは4月10日に開催予定との説明があった。

4) 研究報告の日本語名・英語名の標記方法について

- ・山本事務局長より、配布資料1の pp.8-10、配布資料5に基づき、日本語名・英語名の標記方法についての提案がなされ、議論の結果、Vol.とNo.をつける案が採択された。  
（1986年度第8回研究会から研究報告が刊行されていることが確認出来たので、1986年度をVol.1とする。2003年度の研究報告から新しい標記を採用する。）

5) 国際ワークショップの状況について

- ・渡辺理事より、配布資料1の pp.10 に基づき、国際ワークショップの説明があり、承認された。
  - + 日本で1回、オーストリアで1回、関係者のミーティングが開催されたとの報告があった。
- ・田村先生より、オーストリアでのミーティングの報告があった。
  - + ドイツ側はグラーツ大学のアルベルト氏がとりまとめを行っているとの説明があった。
  - + ワークショップの Web ページを作成し、スケジュール及び内容等の掲載を行いたいとの説明があり、承認された。
  - + 来年の3月、4月頃に Call For Paper を行う予定であるとの説明があった。
  - + プロシーディングの発行についての議論があり、JSiSE としては、発行する方針でドイツ側と調整することが決まった。岡本会長より、プロシーディングについて、詳細を詰めるようにとの依頼があった。

6) 英文誌・和文誌の進捗状況について

- ・磯本副会長（学会誌編集委員会委員長）より、配布資料1の pp.10-11 に基づき、編集委員会の議事録に関する説明があり了承された。
  - + ドメイン名「jsise.org」の取り扱いについて現状報告がなされ、この点については、今後、広報・WWW 委員会で検討することになった。
  - + 岡本会長より、編集委員会の開始日は理事会と同じ日程にするよう依頼があった。
- ・磯本副会長（学会誌編集委員会委員長）より、配布資料1の pp.11-12 に基づき、英文論文編集委員会の議事録に関する説明があり了承された。
  - + 岡本会長より、英文誌の第2巻以降は、英文誌特別委員会として規約を作り、独自に活動して欲しいとの説明があった。また、委員会の方針については、編集委員会で提案いただき、当該委員会の委員長、会長、副会長で詳細を詰めていきたいとの意見が出され、承認された。

7) 新規特別委員会設立の提案

- ・岡本会長より、会員から「情報文化」の方向から貢献はできないかとの意見があったと説明があった。

8) 選挙管理委員について

- ・山本事務局長より、配布資料1の pp.12 - 13 に基づき、選挙委員の選出についての説明があり、議論の結果、次回の理事会までに検討し、理事会時に承認することが決まった。

## 9) 会員確保について

- ・山本事務局長より、配布資料1の pp.13, 配布資料3, 配布資料4に基づき、維持会員の拡大と会員確保のパンフレットを作りたいとの説明があり、承認された。
- ・岡本会長より、会員数を1500名以上にしたいので、良いパンフレットを作成するよう依頼があった。

## 10) 委員会からの審議事項及び報告事項

### 組織運営委員会

- ・山本事務局長より、選挙管理委員会の決定次第、それに関わる活動に取り組むよう依頼があった。

### 広報・WWW委員会

- ・山本事務局長より、MLの作成、更新、変更を行う部門や担当者を統一していないため、管理が煩雑になる可能性がある、また、Webを委員会が独自に更新しているため、事務局で把握できない場合がある、などの問題点が指摘された
- ・福原評議委員より、インターネットの普及にともない、広報・WWW委員会は、今後、学会において極めて重要な役割を担うことになるため、方針について十分な議論が必要であるとの意見が出された。
- ・岡本会長より、広報・WWW委員会の今後の方針（ML、Webの管理を含む）について、会長、副会長、関係する委員会の委員長等で案を作り、理事会で再度検討するとの案が出され、承認された。

### 情報教育特別委員会

- ・磯本副会長（情報教育特別委員会委員長）より、配布資料1の pp.14に基づき、情報教育シンポジウムを開催したとの報告があった。また、「情報教育推進のための提言」を準備中との報告があった。

### e-Learning 技術委員会

- ・小松副会長（e-Learning 技術委員会委員長）より、2ヶ月に1度程度集まって、活動目標を議論しているとの報告があった。
  - + シンポジウムのメンバーの半数は固定、残り半数はテーマに合わせて入れ替えるとの説明があった。
  - + 4月と10月にシンポジウムを開催するとの説明があった。
- ・岡本会長から ALIC（伊藤氏）から委員会への協力についての提案があったとの説明があった。この件については、後日検討することになった。

## 11) その他

- ・岡本会長より、次回の委員会で、伊藤先生に全国大会の報告をお願いしたいとの依頼があった。
- ・山本事務局長より、アジア国際学会 ACTM から後援依頼を依頼されているとの報告があり、承認された。また、岡本会長より、経費の面で問題がなければ、積極的に進めて欲しいとの説明があった。
- ・山本事務局長より、配布資料1の pp.15に基づき、協賛、後援依頼の説明があり、承諾された。
- ・山本事務局長より、JSiSE のドメインを更新したとの説明があり、承諾された。今後のドメインの取り扱いについては、検討するとの説明があった。
- ・山本事務局長より、事務局職員の移動についての説明があり、了解された。
- ・坂元理事より、下記の連絡があった。
  - + 沖縄工業高等専門学校 メディア情報工学科の教授公募についての通知があった。
  - + 日本学術会議「科学教育研連・工学教育研連」合同シンポジウム開催（12月19日）についての案内があった。
  - + OECD/JAPAN セミナーの開催（12月5日～6日）についての案内があった。
  - + 日本学術会議主催のシンポジウム（平成15年1月16日～18日）についての案内があった。

# 第 92 回研究報告

## 【インターネットとその教育応用研究部会】

研究報告書購入ご希望の方は、日本学会事務センター事業部・海外部（学協会刊行物頒布業務）まで、TEL（03-5814-5811）、FAX（03-5814-5822）Eメール（sub@bcasj.or.jp）でお申し込みください。

1部 1,300円（送料共）です。残部切れの際はご容赦ください。

なお、JSiSE 会員で「研究報告」の年間購読（購読料は送料込みで年間 4,000円）をご希望の方は JSiSE 事務局 TEL（06-4961-6507）、Eメール（secretariat@jsise.org）までご連絡ください（年間 6回）。この際、ぜひ購読されますようおすすめいたします（教育システム情報学会研究会委員会担当 / 伊藤紘二）。

.....

- ・開催日：2002年11月30日
- ・場 所：東京学芸大学

### 1. 大学図書館情報検索サーバにおける検索語の解析

江刺宏恭，山田 朗（東京学芸大学）

本稿では献立作成演習システムを給食管理教育に効果的に生かすことを目指して、演習システムの操作履歴と献立調整過程の記録から学習者の献立作成過程、問題点埋め込み式演習方法におけるフィードバックの効果を検討したうえで、シミュレーションを利用した献立作成の授業設計、その特徴について考察する。

### 2. Image Web Server を利用した衛星画像の教育利用

浅井文男（奈良工業高等専門学校）

初等・中等教育機関における衛星画像の教育利用を図るため、気象観測衛星 NOAA が撮影した高解像度の衛星画像の教材化を試みた。教材用画像データを作成するために必要な画像データ受信システムの設置と画像データ処理ソフトの開発はすでに完了している。児童・生徒がインターネット上で衛星画像をインタラクティブに操作し、学習情報の抽出や学習課題の解決を図る学習システムのプロットタイプとなる Web サーバシステムを

試作し、64kbps の PHS による接続環境下でも教材用 NOAA 画像をスムーズに操作できることを確かめた。サーバシステムの機能強化と画像データベースの構築が今後の課題である。

### 3. 電子テキスト&ノートによる学習システム

奥田富蔵，及川義道（東海大学），大塚一徳（長崎県立大学），井上 靖（東海大学）

われわれは、電子テキストとノートによる学習システムを模索してきた。それは自習を前提とし、学習の受容、理解の過程に焦点をおいたものである。これまで、マウスを主体とした数式入力インタフェース、先行オーガナイザーの役割を担う学習概念の全体的体系あるいは構造を表わす概念図の作成、テキストの内容理解のための電子ノートなどのサブシステムについて検討してきた。本報告では、このシステムの主要な機能である電子ノートの作成、診断機能について述べる。

### 4. ttyrec を用いたお手軽オンライン配信の試み

山下 健司（日本アイ・ビー・エム（株））

筆者は今春から非常勤講師として私立大学でプログラミング言語の講義を担当した。講義の一環として ttyrec をというソフトウェアを用いたテキストのオンライン配信を行った。ttyrec を用いたオンライン配信ではクライアント側に特別なソフトウェアを必要としない。windows マシンが一台



あればサーバーを構築でき、“お手軽”にオンライン配信が実現できた。本稿ではその仕組みを紹介し、評価を行った。



お知らせ

5. デジタル指導書を利用する指導計画作成支援  
井上智雄（国立情報学研究所）

第91回研究部会は、第2回 e-learning 技術委員会・企業内教育研究部会合同シンポジウムを開催しました。

教育用デジタルコンテンツの開発が進みつつある。今後はデジタルコンテンツを教師がいかにも有効に活用するかが重要となる。しかし、初中等教育における基幹コンテンツである教科書類については、現在のところ技術的・非技術的な様々な制約があるため、そのデジタル化は今後の課題である。筆者らは、これら基幹コンテンツを含めて教師の作業内容に基づいた教育コンテンツのデジタル化を考え、その中核となるデジタル指導書について検討した。また、このような教育デジタルコンテンツの活用例としてデジタル指導書を利用する指導計画作成システムを開発した。



6. 指導計画書記述言語の設計と開発

森本康彦，木暮高志，河野真也，  
横山節雄，宮寺庸造（東京学芸大学）

学校現場において、意図的、計画的な教育の実施には、学習指導計画書の作成がきわめて重要である。しかし、学習指導計画書には慣習的な形式はあるが統一的な記述形式はない。そこで、本研究では、実際の多くの学習指導計画書と既存メタモデルから記述項目を抽出し精選して、形式化を行い、学習指導計画書を記述するための言語を設計・開発し、さらに XML 化も行った。本記述言語を用いることで、項目の整合性のとれた質の高い学習指導計画書を記述できると考えられる。

【お詫び】

ニューズレターNo. 120 の発行日に誤りがありました。深くお詫び申し上げます。

下記のとおり訂正させていただきます。

発行日 2002年9月28日（誤）

発行日 2002年11月28日（正）

